

経済学部経済学科		教授	小林 徹	大学院の授業担当 無
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	大規模講義科目	2016年4月～	聞くだけでなく、手を動かしてノートへのメモが出来るよう、パワーポイントのスライドによる説明と板書による説明を併用している。また興味や集中力の持続を考慮し、授業時間の中盤に関連する動画資料を紹介することや、LMSで回答可能なクイズを出題するなどしている。授業評価アンケートだけでなく、手書きによるリアクションペーパーを実施し、授業手法の改善に活用した。	
2	小規模のデータ分析演習科目	2016年4月～	計量経済分析をPC教室にて演習形式で実施する授業を担当。授業においては具体的な分析手続きや、エラー対応など双方向でのやり取りを心がけ、置いていかれる学生が出ないように配慮した。LMSのタイムラインを活用し、複数名に共通して発生するような質問への回答を逐次確認できるようコメントとして残すことや、LMSで毎回授業後の課題の回答を確認できるようしている。	
3	演習科目	2016年4月～	教員の専門範囲内で学生の自主性を重んじた研究指導を進めている。具体的には、労働・雇用・働き方・採用・人事労務の話題の範囲内で自由にテーマを設定したのち、各自の研究進捗をプレゼンし、教員から各自に与えられるコメントを元に論文作成をすすめられるよう指導する。演習の序盤においては、実証経済論文の作成過程について段階的に「基本の型」を説明し、その「基本の型」をいつでも振り返ることが出来るよう説明動画をアップロードしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1				
2				
3				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1				
2				
3				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
1	データサイエンス教育へ民間データサイエンティストを活用する人材サービス企業との連携プロジェクトの推進	2025年度	民間で活躍するデータサイエンティストを大学のデータサイエンス教育に活用した。具体的には、高度人材へ副業的なスポット業務を斡旋する人材サービス企業に相談し、会員データサイエンティストに非常勤講師として半期科目を担当して頂けるよう交渉し、実現までプロジェクトを推進した。業務委託形式であるため、人件費やアカデミック応募資格のミスマッチといった障壁を超えることができ、2026年度からデータサイエンスビジネスの現場で活躍する講師の複数科目が設立された。	
2				
3				
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
2010年4月～現在		日本経済学会 正会員		
2012年7月～現在		日本労務学会 正会員		
		編集委員2022～2023		
		研究奨励賞審査委員2026～		
その他				

経済学部経済学科	教授	小林 徹	大学院の授業担当 無
受賞歴: 2016年度 SSJデータアーカイブ優秀論文表彰			